

学習支援活動に関する保護者アンケート 調査結果

【調査の概要】

調査対象者： 学習支援活動に参加する子どもの保護者＝50名

回収数・率： 回収数＝11通 ・ 回収率＝22.0%

調査方法： 学習支援活動に参加する美濃加茂市内在住の保護者＝手渡し
その他の対象者＝郵送

実施期間： 2016年12月16日（金）～2017年1月20日（金）

実施者： 中部学院大学人間福祉学部人間福祉学科3年・宮嶋ゼミナール
渡邊諒太 ・ 宇佐美風輝 ・ 細野 誠

協力： 美濃加茂市社会福祉協議会
こもれび学習支援教室

【調査結果】

設問1・① 性別： 女性＝11名（100%）・ 男性＝0名（0%）

設問1・② 年齢： 20代後半＝2名（18%） 30代後半＝1名（9%）
40代前半＝6名（55%） 40代後半＝2名（18%）

設問1・③ 居住地： 美濃加茂市内＝7名（64%） その他＝4名（36%）

設問1・④ 職業： 正職＝5名（46%） パート＝4名（36%） 主婦＝2名（18%）

設問1・⑤ 家族形態： 1) 母子世帯＝8名（73%）

2) 三世帯家族＝1名（9%） 3) 夫婦と子ども＝2名（18%）

設問2 学校の出来事に関する子どもとの会話

1) よくする＝4名（36%） 2) 時々する＝5名（46%）

3) あまりしない＝2名（18%）

設問3 高校進学希望 1) はい＝11名（100%）

設問4 子どもに対する心配事の有無 1) はい＝9名（82%） 2) いいえ＝2名（18%）

設問5 設問4の具体的内容

- ・勉強がついていけるか 友達と仲良くできるか ・思春期を迎えた時に、様々な葛藤をのりこえられるか ・自分から何かをしようとしない、言われないとしない。
- ・自分の世界に入って話を聞いてくれない。 ・勉強を集中してできない
- ・金銭的に私立高校に行かせることが出来ないなので、勉強のほうを頑張ってほしい（選択範囲が増えるので） ・母子家庭で父の家、母の家を行ったり来たりしている

・進路や就職について ・学校に行けなくなることが多々ある。学習面での遅れ

設問6 「子ども学習支援教室」の認知 100%

設問7 「子ども学習支援教室」への参加 100%

設問8 「子ども学習支援教室」への不参加の理由・・・NA

設問9 「子ども学習支援教室」への参加の理由

- ・少しでも勉強する力がつくといいと思って ・家庭では宿題はやって当たり前になってしまい、やらないことで叱ることはあっても、しっかりできた時になかなか誉めることができずにいました。
- ・教室の先生や、お友達と楽しく宿題ができるといいと考えたから ・学校以外の人と接してほしい
- ・私ではなかなか勉強を教えることができないが、勉強を教えてくれるので、参加させたかった
- ・塾のかわりになると思ったから。 ・まわりの子たちが勉強していれば一緒に頑張ると思ったので。 ・子どもが行きたいと言ったから。 ・本人が参加したいと言ったので
- ・勉強を見てくれるから。 ・宿題を済ませられるから。行き始めたら楽しそうだから
- ・学校は楽しく行っていて友人も少しいるが、それ以外の時間は、ほとんどオンラインゲームに夢中になり休日も他人と関わろうとしないから ・主治医のすすめ
- ・知人に勧められたことではじめて知りましたが、見に来てとてもいいと思ったからです

設問10 「教室」への参加度： 1) 毎回=3名(27%) 2) ほぼ毎回=8名(73%)

設問11 勉強への意欲の変化：

- 1) とても上がった=1名(9%) 2) 上がった=4名(36%)
- 3) 変わらない=5名(46%) 4) 判断できない=1名(9%)

設問12 「教室」への参加と子どもの変化

- 1) あった=5名(46%) 2) ない=1名(8%)
- 3) どちらとも言えない=5名(46%)

設問13 設問12で「1)あった」と答えた方の具体的内容

- ・勉強することを前よりも嫌がらなくなった ・学校の話はしないが、教室での話はしてくれる。
- ・毎週教室を楽しみに過ごすようになった。勉強を楽しんでやる姿がみられるようになった。
- ・教室でいろいろな先生や学生さんと話すことによって、他人との関わり方が上手になった。
- ・積極的になった。
- ・学校での勉強や、小テスト、わからないことが分かるようになったと言って、喜んでいて。

設問14 「教室」と「大学生ボランティア」について

- ・仲良くしてくれていて子供も喜んでいていい
- ・子供たちもお兄さんお姉さんが本当に大好きで会えるのを楽しみにしています。
- ・ボランティアの方々がしてくださったことを忘れず、子供たちが大きくなったときに、同じような活動に参加できるといいと考えています。
- ・勉強を教えてくれたり、いろいろな話ができ、楽しいと言っている
- ・若い方が地域貢献活動をしている姿がとても励みになる
- ・とても助かっています。子供との視線が近いので子供も安心すると思います。
- ・皆さんとても親切で子どももお兄さん方が大好きです。また行きたいと言ってくれるのもお兄さん方のおかげだと思います。 ・話しやすそうなのでいいと思う

- ・楽しく通えているので、ボランティアの方には感謝しています
- ・大学生から直接話を聞くことで将来の目標や方向性を考えることが出来るのでいいと思います。
- ・子供はわかりやすく教えてくれると言っていました。

設問 15 「教室」に対する意見・要望

- ・このままで良い ・宿題をきちんとすることで、誉めてもらい、認めてもらうことで自己肯定ができ、本当に感謝しています。
- ・子供たちが大きくなったときに同じような活動にボランティアとして参加させていただけるように、これからも続けて頂きたいと願っています。
- ・勉強を見てあげる時間がなかなか取れないので、勉強を見てもらえるのが本当にありがたく思っています。
- ・本人の問題ですが、宿題だけやって遊んでいるようなので、わからないところを聞いたりして、勉強してほしい。仕事が終わってからだと、6時半になってしまうので、少し時間がない
- ・子供が大きくなるきっかけをもらったと思っています。
- ・通わせて本当に良かったと思うし、感謝しています。

【考 察】

アンケート調査の結果から、回答されたのは、すべて女性であり、母親でありました。母親の年齢は40代前半が半数でした。また、母子世帯が7割を超えていました。

すべての家庭で高校進学を希望し何らかの心配事を抱えていました。その心配事を具体的にみると、①勉強②金銭③その他であった。

設問9からみると、参加理由としては勉強に関すること、人との関わり方を身につけてほしく参加した方が多かった。知人に勧められて参加している方もみえ、当事者同士のつながりでも参加者の輪が広がっている。

設問11・12から、高い期待を持って参加させた保護者の半数は勉強に肯定的になり、参加の目的が達成できたと答えている。しかしもう半数は勉強に肯定的にならなかったと答えている。

設問14を見てみると、調査に回答した母親は、教室に参加している大学生ボランティアを次のように見ていました。大学生は、子どもたちにとって、歳が近く話しやすい存在であり、大学生から話を聞くことで、将来の目標を子どもたちが、抱くことが出来る。

設問15の結果から、支援教室に子どもが参加することで、子どもたちが誉められ、認められ、自己肯定感が高まりました。ゆえに、支援教室は子どもにとって、楽しい居場所になっていると、母親達は肯定的に見ていた。

【今後に向けての提案】

親御さんのニーズの居場所づくりは、徐々に形となってきていて、勉強する環境も整ってきた。しかし、高校に進学させたいというニーズについては、これから学習支援教室の回数を増やしたり、継続的に行なっていくことが必要だといえる。また、学生ボランティアとして、一定のボランティア人数の確保、夢をもってもらえるように、大学で学ぶことの楽しさを今まで以上に、伝えていくことが必要だといえる。

【参考資料】

保護者の皆様へ

学習支援活動に関する保護者アンケート

<趣 旨>

今の時代、社会全体の閉塞状況が広がるなか、経済的な格差もますます広がってきています。その結果、社会的に弱い立場の家庭で生活する子どもたちも増え続け、およそ6人に1人の子どもが貧困状態にあると言われています。また、幼少期の生活上の不利益は、学力や成長発達、進路などにも大きな影響を及ぼすこととなり、低学歴・低収入・心身の不調など、大人になっても貧困から抜け出せないのが、現状となっています。社会的にハンデのある家庭は、経済的な問題の他に、時間的貧困や社会との関わりが薄い関係性の貧困といった問題が内在していることも多くあります。

私たち中部学院大学人間福祉学部宮嶋ゼミでは、美濃加茂市社会福祉協議会が行われている「子どもたちへの学習支援活動」にボランティアで参加させていただいています。私たちは将来、社会福祉士として子どもとその家族や地域の皆様の福祉の向上に貢献したいと考えています。そして、私たちは卒業論文をグループで作成し、そのテーマとして「ひとり親家庭の支援」を取り上げ、研究を行っていく所存です。

そこで、今回、美濃加茂市社会福祉協議会様のご理解・ご協力のもと、以下のようなアンケートを実施させて頂くこととなりました。アンケートにご協力いただき、私たちの論文作成並びに今後の学習支援事業に役立てていきたいと思っています。なお、ご協力いただいたアンケート結果は、皆様方が特定されないことがないよう、配慮したうえで、卒業論文並びに本学における学生による、地域貢献活動事業報告以外には、利用いたしません。

なお、提出は、2017年1月20日（金）までに、大学生ボランティア又は社会福祉協議会の職員様にお願います。

ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

2016年12月16日

中部学院大学人間福祉学部人間福祉学科3年・宮嶋ゼミナール

○渡邊諒太 ・ 宇佐美風輝 ・ 細野 誠

連絡先

〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘2丁目1番地 中部学院大学内宮嶋研究室

TEL&FAX : 0575-24-9384 E-mail : miyaji@chubu-gu.ac.jp

設問1 次の①～⑤について、ご記入あるいは選択してください。

①性別： 女性 ・ 男性

②年齢： 20代前半・20代後半・30代前半・30代後半・40代前半・40代後半
50代前半・50代後半・60歳代・それ以上

③お住いの地区・地域〔 〕

④ご職業〔 〕

⑤家族形態： 1) 母子世帯 2) 父子世帯 3) 三世帯家族 4) 祖父母と子のみ
5) 夫婦と子ども 6) その他（ ）

設問2 お子様と学校であったことについて、話をされるほうですか？ 1つ選んでください。

1) よくする 2) 時々する 3) どちらでもない 4) あまりしない 5) しない

設問3 今後、高校進学させたいとお考えですか？ 1) はい 2) いいえ

設問4 お子様に対しての心配事がありますか？ 1) はい 2) いいえ

設問5 設問4で「1) はい」とお答え頂いた方に質問です。

①具体的には、どのようなことですか？

設問6 美濃加茂市社会福祉協議会が行っている「子ども学習支援教室」はご存知ですか？

1)知っている 2)知らない

設問7 美濃加茂市社会福祉協議会が行っている「子ども学習支援教室」に参加したことがありますか？

1)ある 2)ない

設問8 設問7で「2)ない」とお答え頂いた方に質問です。

①参加しなかった理由を教えてください。

※設問7で「ない」とお答えされた方は、これでアンケート終了となります。ご協力ありがとうございました。

○設問7で「ある」とお答えされた方は、以下の質問にもご回答を宜しく願います。

設問9 「子ども学習支援教室(以下「教室」と略します)」にお子さんを参加させようと思われたきっかけは、どのようなことでしたか？

設問10 「教室」に今までどのぐらい参加されましたか？ 1つ選択してください。

1) 毎回 2) ほぼ毎回 3) 時々 4) 数回 5) 1回のみ

設問11 「教室」に参加し、お子さんの勉強に対する意欲は変化しましたか？ 1つ選択してください。

1) とても上がった 2) 上がった 3) 変わらない 4) 下がった 5) 判断できない

設問12 「教室」に参加する「前」と「後」で、お子さんの様子に何か変化がみられましたか？

1) あった 2) ない 3) どちらとも言えない

設問13 設問12で「1)あった」とお答えの方に質問です。それは、どのような変化でしたか？

設問14 「教室」に参加している「大学生ボランティア」について、どのように思われますか？

設問15 「教室」に対して、ご意見・ご要望等がございましたら、自由にご記入ください。

以上で、アンケートは終了です。

ご協力ありがとうございました。